

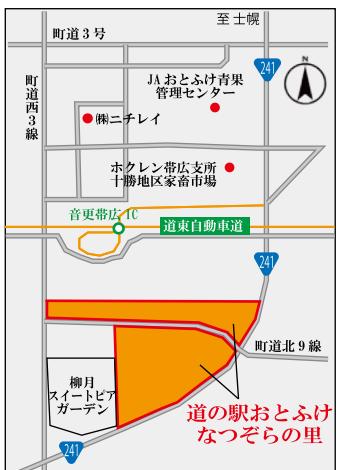
## ～多様な機能を備えた北海道の道の駅～

前号では、成功する道の駅のポイント・進化する道の駅の事例について紹介しました。

今回は、全都道府県の中で最も道の駅の数が多く(R6年12月現在127箇所)、リニューアル直後の道の駅や宿泊施設・温泉施設、アクティビティな機能等、機能の多様化が進むと共に、地元の特産品を活かした取組みや商品開発等に取り組んでいる北海道の道の駅を特集します。

## 道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」音更町

## 様々な世代が楽しめる多様な機能



## 【道の駅の概要】

## ○コンセプト

「食の聖地」をコンセプトに9つの飲食店のほか農畜産物等販売所を設け、十勝・おとふけの食を集め

## ○開設日

1996年4月

## ○敷地面積

2022年4月 移転開業

80,378 m<sup>2</sup>

## ○事業費

15億8千万円

道の駅おとふけ「なつぞらの里」は、従来の道の駅の建物が老朽化したことに伴い、2022年に高速道路IC周辺に移転し、リニューアルオープンしました。

年間300回を超えるイベントの開催やNHK連続テレビ小説「なつぞら」のセットが再現された施設、子育て支援施設を備える等、世代を問わず楽しむことができます。

また、「食の聖地」をコンセプトに十勝・音更町の食を集め、「食」を活かした魅力を発信しています。都市間バス、空港連絡バスの乗り入れによる交通結節点機能や、いざという時に安心・安全な防災機能も備えた多様な機能を備えた道の駅です。



■ 道の駅おとふけ 全体マップ

## 道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」の特徴

### 1 様々な世代が楽しむことが可能

世代を問わず楽しむことが出来る機能が充実しています。食や音楽、防災、花火大会など多岐に渡るジャンルのイベントが年間を通じて開催されているほか、3歳未満、3歳以上と年齢に合わせて遊べるキッズコーナー、ドラマのファンだけでなく知らない人でも十勝ならではの牧歌的な景観や展示等を楽しむことが出来る「なつぞらエリア」など、地域交流の場として賑いを創出しています。

多種多様なイベントの開催  
(年間300回以上)



道の駅に行けば何かやっているというほどイベントが開催されており、平日・土日を問わず賑わっています。

年齢に合わせて遊べる  
「キッズコーナー」



大型の木製遊具や、壁面を利用したプロジェクションマッピングを設置したキッズコーナー。保護者が見守る中安心して遊ぶことが出来ます。

ドラマの世界観が体感出来る  
「なつぞらエリア」



2019年に放送されていた「なつぞら」の一部が再現されています。ドラマファンだけでなく、知らない人でも「なつぞら」の世界観を体感できます。

### 2 地元の名産を活かしたメニュー・加工品・特産品が勢ぞろい

地元の食材や名産品を活かしたメニュー・加工品・特産品が勢ぞろいしています。また、十勝・音更町の農畜産物を用いた加工品や特産品のほか、十勝の水産物や地元の方の普段使いの買い物も楽しめるよう、全国の旬の果物や野菜の販売も行われており、グルメやショッピングが充実しています。



音更町名物、黄身まで白い卵「米艶」が使用された「白いオムライス」



地元中学生が考案し商品化された「ティラミスマロンパン」



地元産のお肉や乳製品、加工食品などが豊富に揃う「なつぞら市場」

### 3 地域の利便性が向上した「交通結節点」

道の駅移転リニューアルに伴い、国道沿いに立地し、道東自動車道「音更帶広 IC」にも隣接する十勝の南北・東西どちらにもアクセスしやすい場所となり、多くの人が集まる場所となっています。

また、道の駅に隣接する「なつぞら公園」は、約 300 台の駐車が可能で、ここに自家用車を駐車し、バスに乗り目的地に移動する交通結節点（パーク・アンド・バスライド）機能を有しています。札幌、旭川、新千歳空港、帯広空港等への高速バスが運行しています。

自家用車を駐車し、高速バス等に乗り換え、目的地に移動することが可能な「交通結節点」



「パークアンドライド駐車場」



「都市間バス・空港連絡バスの乗降所」

### 4 災害時に頼れる防災機能

音更町の地域防災計画において、指定避難場所、指定緊急避難場所及び車中避難場所に位置づけられています。音更帶広 IC に近い立地を活かした、広域災害時の支援拠点としての機能も想定されています。

館内は、停電時も自家発電で 72 時間対応が可能で、断水時には井水が使用でき、防災倉庫には発電機や避難者向けの毛布などの資材も備蓄され、安心・安全の拠点となっています。

日常利用も出来、災害時にも役立つ機能



「ソーラーベンチ」



「EV 充電器」



「大規模災害を想定した「防災訓練」」

### 5 民間事業者のノウハウを活用(事業手法と事業スキーム)

#### 事業手法

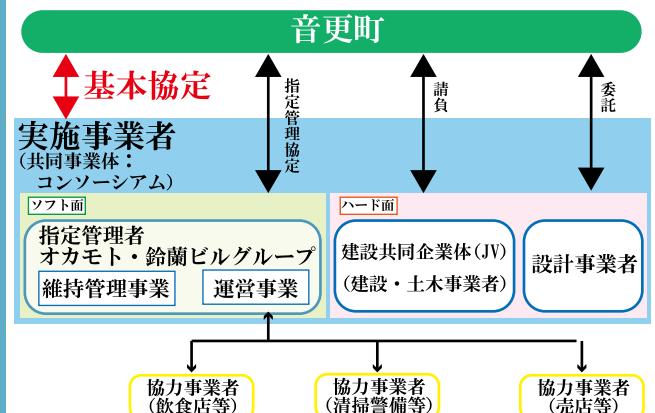
##### ▶ DBO (Design Build Operete) 方式 指定管理者制度

DBO 方式：公共が資金調達を行い、建物等を設計・建設し、運営を民間事業者に委託する方式

##### 〈施設整備のポイント〉

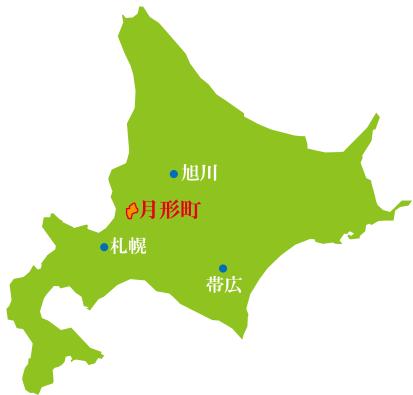
設計段階から民間事業者が関わることで、運営を見越したコストパフォーマンスの高い施設の建設が可能。また、民間事業者の主導で自由度が高く魅力的な運営が実現できるよう、指定管理者制度を導入。

#### 事業スキーム



# 道の駅 275 つきがた 月形町

## 地域の特産品を活かした商品開発



### 【道の駅の概要】

#### ○コンセプト

月形町の知名度向上と魅力をアピールする空間づくり

○開設日

2024年9月1日

○敷地面積

37,355 m<sup>2</sup>

○事業費

10億4千万円

道の駅 275 つきがたは、新しい建物は建設せず、温泉施設、宿泊施設など皆楽公園エリアの既存の施設を活用し、温泉等の改修に合わせて、道の駅に必要な機能を追加し、2024年9月1日にオープンしました。札幌市と旭川市の中間にあり、交通量の多い国道275号と町道皆楽公園線の交差部近くに位置し、温泉やキャンプ、特産品の販売場などを備え、観光客だけでなく町民も日常的に訪れ、楽しむことが出来る道の駅です。

### 道の駅 275 つきがたの特徴

#### 1 特產品開発支援「ふるさと特產品開発補助事業」により開発された商品の販売

道の駅の魅力向上、町の優れた地場産品の付加価値向上、町の魅力向上及び地域産業の活性化を図ることを目的とし、月形町ふるさと活性化基金を活用した「ふるさと特產品開発事業」を新設しました。町の特色と地域資源を活かした開発に取り組む事業者に補助金を交付することとし、この事業で開発された商品を道の駅等で販売し、町のPRや産業の活性化を図るだけでなく、特産物の創出にも役立てています。

#### 事業支援内容

補助対象者	①【町内対象者】：町内に住所を有する個人・法人・団体 ②【町外対象者】：道内に本店・営業所・事務所等を有する法人
補助対象事業	①新たな商品の開発又は商品化に関するものであること。 ②道の駅で販売することを主たる目的とした特產品開発であること。 ③開発した商品を納入することに確実性があること。 ④販売予定価格及び販売価格が適正であること。 ⑤町の特産品として定着することが期待されるものであること。
補助率・補助額	①【町内対象者】：補助対象経費の10分の9以内、100万円を上限 ②【町外対象者】：補助対象経費の2分の1以内、50万円を上限
補助対象経費	原材料費・技術コンサルタント料・消耗品費・試験分析費・デザイン費等

## 交付事業内容

### ◆令和5年度事業（実績）

- ・月形町産農作物を使ったアイスキャンディーの開発

### ◆令和6年度事業（第1期）※4月1日～4月12日の期間において申請があり採択されたもの

- ・オーガニックな食材と月形町産農作物を使ったローグラノーラ商品の開発
- ・月形町産農作物を使ったスイーツ商品の開発
- ・月形の景観（自然・歴史・文化）をデザインした文具と生活雑貨の開発
- ・ご当地カレー（レトルト商品）の開発
- ・月形町産米粉を使ったお菓子の開発

## 事業を活用して開発された商品

### ■月形町産作物を使った月形アイス



月形町の特産品「かぼちゃ」「スイカ」「メロン」の3種類をメインの食材とし、①かぼちゃ×シナモン、②スイカ×フランポワーズ、③メロン×カルダモン3種類の味が楽しめます。

### ■月形の歴史をデザインした生活雑貨商品



月形町の成り立ちや北海道開拓に影響を与えた樺戸集治監の初代典獄である月形潔をメインモチーフにしたクリアファイルやトートバッグなど。

## 2 多くの人が集う複合交流拠点を形成

温泉施設、宿泊施設、キャンプ場、屋内運動場等の地域交流機能を備え町民が日常的に訪れ、観光客も訪れたくなる場所として多くの人が集う複合交流拠点を形成するに加え、地域の活性化、賑わい創出のため旧樺戸集治監本庁舎などの点在する観光資源や地域特産品の情報も発信しています。

### 点在する町の観光資源の情報を発信



■観光スポットでは外せない  
「旧樺戸集治監本庁舎」

### 町民も観光客も訪れたい複合交流拠点



■キャンプ場に設置された  
「バンガローサイト」



■露天風呂やサウナも備えた  
「温泉施設」

### 平面図



# 道と川の駅 花ロードえにわ 恵庭市

## 人を惹きつける景観機能



### 【道と川の駅の概要】

#### ○コンセプト

花と緑と水に囲まれた、恵庭の旬が集まる憩いの駅

#### ○敷地面積 9,770 m<sup>2</sup>

#### ○開設日

2006年7月1日

2020年3月12日 リニューアルオープン

### ✿「花の拠点はなふる」

北海道恵庭市は「花のまち」として知られています。

「花の拠点はなふる」は、恵庭の新たな観光スポットとして2020年11月にオープンした、約9.4haの規模を持つ公園です。道と川の駅「花ロードえにわ」が花の拠点はなふるの敷地内にあり、誰もが気軽に花と触れ合え、「花のまち恵庭」の魅力を広くアピールできる都市公園として誕生しました。季節の花々に彩られるガーデンや道の駅が花のまち恵庭を象徴するスポットとなっています。



■「花の拠点はなふる」の看板を彩るプランター

### ✿「花」をテーマとした景観形成

道と川の駅「花ロードえにわ」を含むエリア全体を「花」をテーマに一体化させ、エリア全体を回遊でき、「花のまち恵庭」を体感しながら数時間滞在できる拠点を目指しています。エリア全体のデザインを考慮し、恵庭らしく、恵庭ならではの風景・景観となるよう工夫がされています。

道と川の駅を含むエリア一体が花で彩られ、人を惹きつける景観を創出している



■ハンギングバスケットで彩られる  
「道と川の駅 花ロードえにわ」



■四季折々の花で彩られる「花の拠点はなふる」ガーデンエリア



# 道の駅 ピア 21 しほろ 士幌町

## デザイン性のある建物と魅力的な空間づくり



### 【道の駅の概要】

#### ○コンセプト

- ①「町民が造る、町民のためのコミュニティ空間」
- ②「ローカルらしさに共感してもらえる観光スポット」
- ③「士幌らしさ、を町民と共に考える」

#### ○開設日

1997年4月11日

2017年4月23日 リニューアルオープン

○敷地面積 21,910 m<sup>2</sup>

### ● デザイン性のある建物と空間

酪農が盛んな士幌町ならではの牛舎をイメージした外観デザインになっています。館内は、道内産のカラマツ材をふんだんに使用した木の温もりが感じられると共に、天井が高く開放感のある造りが特徴です。

また、商品には生産者さんの紹介やおすすめレシピ、商品の背景にあるストーリーなど手をかけて作られたPOPも魅力的な空間を創り出しています。



■木の温もりが感じられ、開放的でゆったりとした空間にリニューアルされた館内



■屋外にも広々とした休憩スペースが設置されており、外での飲食も可能

特産品や素材を作っている生産者の方が喜び、町の人に愛される  
オリジナル商品を開発し、魅力的なポップで紹介



■限定商品や士幌町でしか手に入らない人気商品



■士幌産のジャガイモを使用した「じゃがいも大福」などオリジナル大福



■ハスカップやラズベリーを使用した「まるごと果実酢」